

大学院「サステナビリティ学教育プログラム」の演習科目として、茨城町にて「国内実践教育演習」（2015年9月9日～10日）を行いました。

茨城町において「国内実践教育演習」（2単位）のフィールドワークを2016年9月9日（金）～10日（土）の2日間実施しました。

茨城町と茨城大学人文学部は、2013年1月に地域連携協定を締結し、さらに2016年3月には、茨城大学との全学の連携協定を結びました。さらに2014年度より本学の戦略的地域連携プロジェクトとなり、今年がその最終年度となっています。本演習は、これら地域連携の一環として、学内の4研究科すべてから参加学生を募り、7名の大学院生が参加しました。県央に位置する茨城町の豊かな地域資源に触れる演習となりました。

演習1日目は、茨城町役場にご協力いただき、2015年5月にラムサール条約に登録された潤沼のフィールドワークを行いました。その後、茨城町の地域資源の利活用について考えることを目的とした、「茨城町で代々受け継がれてきた食を探るインタビュー調査」を3班に分かれ行いました。

午後は、「ひろうら田舎暮らし体験推進協議会」が中心となって行っている民泊体験プログラムに参加し、つと豆腐・花巻寿司づくり体験を行いました。夜は農家民泊体験として、各ご家庭にホームステイをしました。

2日目は、早朝の潤沼でのいかだ体験後、イオンタウン水戸南へ移動し、茨城町で代々受け継がれてきた「つと豆腐」の試食会&アンケート調査を行いました。この調査は、茨城町役場の方々や茨城東高等学校の生徒18名、つと豆腐を茨城町でつくっているひまわり工房の山口様とも共同で、総勢30名以上で手分けし行いました。4時間ほどの調査で、最終的には238名の方にアンケートへのご協力をいただきました。

2014年度より始まった茨城町における演習も3年目を迎えました。今後は、この3年分の成果をまとめ、茨城町地域資源の利活用に関する報告書や報告会を開く予定です。



潤沼の湖畔をフィールドワーク（網掛公園）



民泊体験プログラムで「つと豆腐・花巻寿司づくり」を体験



茨城町で代々受け継がれてきた食を探るインタビュー調査



試食会用に「つと豆腐」の準備



つと豆腐を使用した「つとまぶし井」を試食



茨城東高等学校の生徒と共同でアンケート調査を実施



アンケート調査実施風景。つと豆腐の作り方を来場者に説明